

令和 7 年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書  
 “Grant for International Symposium with Academic Partner University in FY 2024” Report Form

2026 年 3 月 26 日

実施責任者 職・氏名 Responsible faculty member(Title, Name)	教授 東藤正浩			
シンポジウム名 Symposium title	第 11 回東アジア機械・航空宇宙工学ワークショップ 11th East Asia Mechanical and Aerospace Engineering Workshop (EAMAE2025)			
実施期間 Date, Time	2025 年 11 月 4 日 (火) ~6 日 (木)			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	東アジア機械・航空宇宙工学ワークショップ (EAMAE) は、台湾、日本、韓国および香港における有力大学の航空宇宙工学系学科によって持ち回りで主催される年次シンポジウムであり、国際的な学術交流を目的としている。参加大学には、韓国の高麗大学、香港理工大学、台湾の国立成功大学そして日本の北海道大学が含まれている。本年度は、2025 年 11 月 4 日 (火) ~6 日 (木) の 3 日間で実施し、2 日間教員および学生による研究発表会を実施し、計 96 件の研究発表があった。最終日に海上風力発電施設見学を含む Excursion を実施した。			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 105 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	5	教員	韓国	Korea University
	15	教員	台湾	National Cheng Kung University
	12	教員	香港	The Hong Kong Polytechnic University
	7	教員	日本	北海道大学
	7	学生	韓国	Korea University
	15	学生	台湾	National Cheng Kung University
	38	学生	香港	The Hong Kong Polytechnic University
6	学生	日本	北海道大学	
シンポジウム開催による成果 Outcome	本シンポジウムは、東アジア地域における航空宇宙分野の学術研究および技術教育に関する国際的な交流と連携のさらなる深化を目指すものであり、今回 100 以上の参加者があり、今後、ますますの交流の深化が期待される。また教員のみならず、多くの学生の参加があったことから、将来的な交流が期待される。			
今後の共同研究に向けた展望と課題 Future prospects and issues towards research collaboration	本シンポジウムを通じて、今後、特定の研究プロジェクトでの共同研究ならびに国際共同事業への外部資金獲得を目指していく。また、シンガポールなど、さらなる有力校の参加参加も議論され、次回からの参加が予定されている。今後より一層の交流・連携が期待される。			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	本事業は、本シンポジウムのような本学主催の国際交流事業において大変貴重な支援事業であり、今後も継続してご支援いただきたい。今回はご支援いただき感謝申し上げます。			